



令和5・⑥・7・8年度 福岡県立農業高校スクールアクションプラン「福岡農業高等学校 版」

令和4年度 福岡県農業・水産高等学校長会 第1研究委員会作成

第4次アクションプラン 全国の農業高校の新戦略 グローバル・アグリハイスクール宣言Part II			自校のスクールアクションプラン					
農業高校の ミッション (目指す学校像)	行動計画 (目指す学校像の具現化に向 けて)	キーワード (該当ワードを○で囲 む)	学科名	本年度重点取組	具体的方策(5W1H明記、数値目標奨励(年度末ABCDE評価の根拠))	SDGs 目標 NO.	評価 (ABC DE)	次年度の主な課題
農業高校 グローバル アグリハイスクール宣言 ○○○○○ 地地地地グ 域域域域 防交環社 災流境会 をのを・ル 推拠守産教 進点り業育 すと創にで るな造寄人 学るす材 校学るすを 校学るすを 校学るすを	1	生徒一人ひとりを一層輝かせ成長させる教育	アグリハイスクー 進路実現、高大連携、 フロンティア学習、 STEM教育 イノベーション教育	食品科学	インターンシップ教育 高大連携	長期休業中の希望職種での職業体験で進路実現100%へ向けて指導 高大連携による販売計画	4	
				環境活用	ものづくり教育 高大・企業連携	「造園技能士」国家資格取得の実技指導を高大連携と造園マイスター講師指導で伝統 技術を伝え、緑化産業への担い手を育成	4	
	2	世界と日本をつなぐグロー カル教育	グローバル教育、 国際交流	食品科学	国際交流	オイスカ研修生との異国間交流 日本の伝統文化を伝えグローバルな考えを育成	10	
				環境活用	GAP教育	「水稲」栽培において取得している県GAPを今年度更新し、科目「総合実習」にて 実践	12	
	3	地域農業の生産を支える教 育	生物生産、特産物、 GAP、経営	都市園芸	GAP教育	次年度の更新に向け学科全体にGAP取得学習を浸透させ、チェック体制の充実	12	
				食品科学	地域貢献	地元企業との共同開発による地域の活性化	12	
	4	地域の農業関連産業や6次 産業化に寄与する教育	地域貢献、6次産業 化、 食農教育、経営、 HACCP	環境活用	地域貢献	生徒による農産物販売会の運営	4 12	
				食品科学	循環型社会	NPO法人ELCによる子ども食堂の開催	1 2 3	
	5	地域環境を守り、創造する 教育	環境創造、国土保全、 循環型農業、循環型社 会	環境活用	循環型農業	福岡市動物園堆肥と本校生産堆肥を組み合わせた有機栽培農業を推進する。	12	
				都市園芸	幼稚園・小学校との交 流事業	生徒主体で栽培指導や卒業式へ向けた草花を使った装飾についての制作支援	4	
	6	地域資源を活用し、地域振 興の拠点となる教育	地域資源活用、特産 物、 地域交流、食農教育	環境活用	地域交流	「いも掘り体験」及び「ふれあい動物体験」を通じた異校種との交流	3 4	
				食品科学	地域資源の活用	太宰府市の梅を活用した商品開発	9 12	
				生活デザイン科	地域交流	学科間連携による福農カフェの実現	12	
	7	Society5.0の時代に応じ た教育	スマート農業、 ICTを用いた学習	都市園芸	プロファームの活用 Chromebookの活用	シクラメン栽培における栽培データを科目「総合実習」等に活用する 栽培上の情報整理収集等「生徒一人一圃場」のプロジェクト学習に活用する	4 12	
				環境活用	スマート農業学習	水稲栽培においてロボットトラクター、ドローン農薬散布機の実演会を開催する。	4 9	
				食品科学	食品DXの推進とICT 機器の活用	加工室のペーパーレス化と原材料の管理をクラウド上でのデジタル管理 Chromebook及びGoogleグループの活用によるデータ集約及び活用	4 9 12	
	8	地域防災を推進する教育	地域防災 多面的機能	環境活用	森林活用教育	学校林の林産物利用と森林教育	15	
				食品科学	地域に必要とされる学校 作り	空缶を元に長期保存用パンの開発と地方自治体への提供を通して、地域防災について考える	12 13	

※本プランは全国農業高等学校長協会「第4次アクションプラン」の規定により、各学校ホームページにて公表、年度末に福岡県教育委員会に報告します。また、福岡県農業教育研究大会誌にも毎年掲載(情報共有)します。

★作成・提出の流れ

①各学科は「行動計画1～8」のうち必ず1つ以上「本年度重点取組」「具体的方策」を記載する。②毎年度始めに「本年度重点取組」「具体的方策」を各学科全職員、次に農務部全職員で協議して作成し、4月30日までに校長会第1研究委員会事務担当者に提出及び各校のHPに掲載する。③毎年度末に「評価」「次年度の主な課題」を各学科全職員、次に農務部全職員で協議して作成し、2月10日までに校長会第1研究委員会事務担当者に提出及び各校のHPに掲載する。④令和8年10月から本取組についての検証を行い総括する。

★「評価ABCDE」の基準：A 90～100%の成果を得られた B 70～89%の成果を得られた C 40～69%の成果を得られた D 10～39%の成果を得られた E 0～9%の成果を得られた